

世界經濟恐慌と『世界通貨及び經濟會議』

高 橋 次 郎

一 開 題

會つては『萬年景氣』を謳はれたドル王國にさへ深刻なる恐慌が猛威を振ふに至り、今や世界の經濟界は全く混迷の状態にある。關稅障壁の引上、輸入割當、輸入禁止、爲替相場の引下による輸出促進、その他各國の國民經濟全體に關する汎ゆる手段を以つて、全般的な經濟戰が世界を舞臺に展開せられて居る。かゝる傾向は、世界恐慌を益々深刻にするのみであり、その果てしを知る由もない。『世界通貨及び經濟會議』The World Monetary and Economic Conference は、謂はゞ斯かる激烈なる經濟戰に平和を保證せんとする經濟的不戰條約會議であり、經濟的軍縮會議である。ローザンヌ會議によつて昨年の秋その開催を約束された所の「現在の世界不況の原因及び之を長引かす他の經濟的及び財政的困難を解決する方法を決定するため」の世界經濟會議は、延期に延期を重ねて漸く一九三三年六月十二日から英京ロンドンに於いて開催せらる事になり、その準備會商がワシントンに於いて目下行はれつゝある。此の世界經濟會議に於いて處理すべき諸問題を豫め研究せし

むるために任命せられた専門家準備委員會の報告が本年一月十九日議長トリツプ氏 (Leonardus J. A. Trip) の署名を以つて提出せられた。ロンドン會議は、此の註釋付議題草案 (Draft annotated Agenda) を中心として展開せられて行くであらう。今、それを披見すると、そこには左の如き六個の問題が掲げられて居る。

一、通貨及び信用政策——現在金本位制を離脱して居る諸國が如才なく加はり得る自由國際金本位制への復歸がその對象となる。此の金本位制運用に當つては、正貨準備率をば在來の三三%若くは四〇%以下に實質的に引下げ、或ひは金爲替本位制を採る事が必要である。又、銀の問題もこゝで論ぜられて居る。

二、物價——物價を引上げるためには、各國協定して商品の供給を制限し、巨額の金を有する自由金本位國が短期利率を低廉にし或場合には公開市場取引を含む寛大な信用政策を行ひ、又それと共に信用需要の起る様にし、且つ健全なる國際投資の回復をはかる事が必要である。

三、資本移動の復活——爲替管理は必要な資金の國際間の移動を妨げて居るから之は撤廢しなければならぬ。そして、特殊な信用機關を創設し、又國際的規模に於ける公共事業計劃をなして、國際金融の再建をはかるべきである。

四、國際貿易上の制限——禁止、割當或ひは許可の何れの形態たるを問はず、かゝる貿易上の障碍の擴大は、それが適用される商品に關しては通商條約の規定を無効ならしむるが故に、それらは速かに撤廢せられる事を要する。

五、關稅及び協定政策——若し世界繁榮の状態が回復さるべきであるとするならば、凡ての國が出来得る限り一齊に關稅の引下を行ふべく、その豫備的手段としては『關稅休戰』をなすべきである。

六、生産及び貿易の組織——各國間の經濟協定によつて、小麥、木材、石炭等の重要商品の生産輸出に就いて統制を行ふ事は必要であらう。又、運輸に關する協定を結ぶ可能性なきや否やを考究する必要があるであらう。

以上は、極めて簡単に Agenda の中に盛りられて居る内容を示したに過ぎない。私は今此處では等の諸問題の一つ一つに就いて技術的な取扱ひをなす事を目論んで居るものではなく、これ等の議題を論議する世界經濟會議そのものをば、世界經濟恐慌との關係に於いて經濟學的に解釋し批判せんとするものである。

扱て、此のプログラムを見て、先づ氣付くことは、『戰債問題』がそこに連座して居ない事である。此の問題が國際經濟に於いて重要なことは、恰も各々の國民經濟に於いて農家及び中小商工業者の負債が重大なる意義を有するのと同然である。専門家委員會も亦此事を認めて、此の問題は其の解決の見込のつく迄は上述の六問題の解決による世界經濟の再建にとつて超え難き障壁として残るが故に、該問題に關する商議の速かなる再開と首尾よき結果とを希求しては居るが、併し乍ら此問題は聯盟理事會から彼等に委囑せられた問題の領域外に横はるが故に敢えて之を問題としなかつた。英佛伊その他の舊聯合國は對米戰債問題をも此の會議に於いて一舉に解決しようとするが、アメリカ合衆國は此問題は債務國と吾國との個別的交渉に待つ可き性質のものなるが故に、之を議題として會議の日程に上らす事を欲しない。來るべき世界經濟會議に於いて議長の役を努めるマクドナルド氏は「戰債問題は討議せず」と言明した。だが、此の問題の重要性は斯かる措置によつて毫も減ぜられるものではない。此問題は軍縮問題と並んで經濟會議の爲の地均工事として重要なが故に、之に觸れることなしに會議が終る事はあるまいと思はれる。Agenda の中に於いても故意に戰債なる文字を敬遠しては

居るが、併し重要な個所に所々此の戰債問題の解決の必要なる事を暗示して居るのを見る。(『世界經濟會議々々』に就いては國際聯盟協會の譯本及び東洋經濟新報第一五四七號の譯文がある。)

二 金本位制は必然なりや

此の世界經濟會議の目的が世界恐慌の原因を取り除き世界の景氣を回復させんとするにある事は言ふ迄もない事であり、其の議題を見ても貨幣の側と商品の側との問題を取扱はんとして居る事は明かである。所で、此の議題の中心をなすものは何であるか？ 幣制と關稅との二大問題であると答へる人もあり、又何よりも先づ金本位への復歸の問題を解決するに非ざれば景氣回復のための物價引上げも國際間の貸借も起り得ないが故に關稅引下げの如きは從たる問題であると云ふ人もある。併し乍ら、各國俱にその最大の關心を金本位制の問題の上に向けて居る事は確かなことであつて、豫備會商に於いても之が中心議題を構成して居る。我政府も「今次の世界會議の根本をなすものは幣制問題である」との訓令を經濟使節に與へて居る。

今や、世界の關心は金に集る！ Agenda に於いても、「世界的に同意を得べき他の國際的貨幣本位がないから、世界會議は、自由金本位制度回復の成功の條件が如何にして達成し得らるゝかにつき考慮しなければならぬであらう」と述べられて居るが如く、資本主義下の貨幣制度は金と離れられない密接な關係を保つて居るのである。かゝる關係を有するが故に、種々の面倒な解き難い問題を提供する様な金本位制を捨て、他の制度に移らうと如何に世の識者が考へて見た所で結局は無駄とならざるを得ないのである。

然らば、何故に貨幣は金であらねばならないか。又、金はわが資本主義社會に於いて如何なる役割を演じて

居るか。分業と私有財産制とを前提とせる社會に於ける商品の交換は、最初の單純なる價值形態〔帽子一個〓靴一足〕から次第に貨幣形態〔帽子一個〓十圓〕へと發展して來た。諸商品中で比較的交換性が多く且つ價值の尺度となり得る性質を具有せる商品が一般的等價物として貨幣の役割を演じて來た。昔は、毛皮・家畜・鹽・銅・銀等が貨幣としての役目を勤めて居たが、今日では専ら金が此の役目に着く様に歴史的に必然な發展を示した。金が貨幣となつたのは、その自然的屬性を唯一の根本的條件とするわけではない。貨幣が金であらねばならぬのは、金が他の商品と同様にそれ自身に於いて一定の價值を有し、又同時に他の汎ゆる商品に對して一般的等價形態として對立し諸商品の價值がそれに表現せられて居る「商品」であるからである。

所が、信用制度が發達するに伴れて、各國とも今日では國內に金の流通を廢して専ら銀行券を發行してそれに代らしめて居る。此の銀行券は何時でも金と兌換せられる事を約束されては居るが、併し信用の發達によつて中央銀行の兌換制度が高度に信用されて居るから、銀行券の流通が擴大してもそれを金と兌換する事を銀行に要求する様な者は殆んどない。従つて、銀行が銀行券の兌換準備として金を手許に保留する必要は益々減少して來た。特に、主要國に於ける信用制度の擴大は、國內の兌換準備としての金保有を殆んど無意義ならしむる迄に發展して居る。此の現象は、一見、貨幣の金からの離脱を思はしめるかも知れぬ。併し、さう考へるのは誤謬である。銀行券の流通は飽くまでも信用制度の發達に伴つて發生せるものにして、銀行券それ自身は貨幣の支拂手段としての機能を果す所の單なる價值表章に過ぎず、その背後には金が伏在して居て、一朝信用制度攪亂の際には奥殿から金が出て來てそれが自ら支拂手段として振舞はざるを得なくなるのである。銀行券の背後に金が伏在して居ると云ふ關係は、現代に於いては國際貸借決濟の際に支拂が金を以つてなされる事によ

つて、何よりも有力に證明される。斯様にして、今日信用制度が極度に發達せる結果として、貨幣の支拂手段としての機能が擴大され、金の必要は世界貨幣として國際間の支拂が行はれる時のみに局限されるに至つた。國內に於ける信用制度の發達は自國に於ける金の流通を全く止揚し得ても、全世界が組織化され統制されない以上は國際的支拂手段としての金は止揚し得ないのである。此の事は、戰後回復した金本位制の姿が金塊本位或ひは金爲替本位の新しい容姿をとつた事によつても明かに示されて居る。金はたゞ國際取引にのみ必要なものであるから、金貨として鑄造しておく必要がなくなるのみならず、又金の代りに外國爲替の準備（外國貨幣本位で支拂ふべき爲替で確實なもの、大銀行の引受手形等）を國際支拂手段として備えて置く事は發券銀行にとつて手近な途である。周知の様に、世界大戰は世界の殆んど凡ての國の金本位制の停止を齎らした。その結果生じた本位貨混亂を清掃するために一九二二年のジュネーヴの會議は「本位貨安定は經濟復興の必須條件である」との原則を宣明したが、大多數の國に充分なる金保有が存しなかつたために金本位への復活が妨げられたので、此の苦界から脱却するために金爲替本位制が發明せられたのである。その下に於いては、法律は金ばかりではなく外國爲替をも準備として銀行券を發行する權利を發券銀行に賦與した。此の金爲替本位制なるものは、金分配の不平等、及び外國爲替業務の發達と云ふ二個の確固たる事實を反映せるものであつて、そこには始めから金を『節約』せんとするの目的はなかつたのである。

それ故に、此の新たなる幣制の下に於いても、年々金が『蓄積』増大化せられつゝある。それは何故であるか？此の事を明かならしむるために、吾々は、現段階に於いて金は世界貨幣として單に支拂手段としての機能を有する外に、更に貸付資本としての特殊性質を通じて認められ得る世界再分割の役割、即ち資本輸出としての意

味に於いての金の世界貨幣たるの意義を茲に大いに強調しなければならぬ。更に又外國爲替は絶對的信賴を置き得る性質のものではなく、中央銀行の申合せや爲替政策などは平和期に於いて僅かに行はれるに過ぎず、戦時には精々同一陣營内に在つて戦ふ味方の諸國の間のみそれが行はれるに過ぎないから、戦時には何よりも先づ金 Gold が必要とせられる。金を掻き集めに熱中する事は、軍需工業の創設と同様に、戦争準備に屬するものである。

前述せる所によつて明かなるが如く、金本位制は歴史的に必然的に發展して來たものであつて、資本主義的商品生産と密接に結び付けられて居る。故に、商品生産を基礎として居る資本主義體制を破壊する事なくしては、金本位制を資本主義的經濟機構から引離してしまふことは出來ないのである。又、逆に、資本主義的商品生産關係は、自ら此の關係を破壊する事なくしては、長期に亘つて金本位制から離脱して居る事が出來ない様な關係に入り込んで居るのである。そこで、理論として色々の貨幣制度が唱えられて居るにも拘らず、實踐はそれに一顧をも與へず、専ら金本位制への復歸を會議の日程に上らせて居る。此の意味に於て、所謂 Silver men の利害關係から提唱せられた金銀複本位制の如きは、正に時代に逆行するものと云ふ可きであらう。

斯くの如き關係を理解したならば、金本位制の問題は單に一の貨幣制度の問題たるのみではなく、全資本主義經濟の動向そのものを示す所の大問題たる事を首肯し得るであらう。

現在の世界恐慌に於いては、所謂金本位停止が行はれて、金本位は本位たるの機能を喪失した。此の本位貨幣恐慌こそは、實に現在世界各國を惱ませつゝ吾々の經濟生活の最前線に現はれて居る最大の問題の一たるを失はぬものである。だが、それは、抑々如何にして、又如何なる關係に於いて、發生せるものであるか。

三 本位貨恐慌の解消のみを以つて本格的に景氣を回復し得るか

今日の社會では、信用關係が汎ゆる經濟關係にからみついて居る。マルクスの云ふが如く、「此の信用は、再生産過程が流動性を維持し、資本の回流が確實となつてゐる限り、持續し且つ伸張される。そして、此の伸張は再生産過程それ自身の伸張を基礎とする。」併し乍ら、擴張再生産が行はれるに伴れて、一方生産力の増大により大量の商品が生産せられるに反し他方購買力は之に伴はず、そこに生産と消費との間の矛盾があらはれ、それが爲に大量の滞貨が山積され價格が低落して生産過剩恐慌が發生する。此の恐慌こそは、信用恐慌・本位貨恐慌の領域に於ける一切の現象の根底に横はるものである。而して、斯かる再生産過程の攪亂又は中斷が資本の回流を遲滞せしむるや否や、産業資本はその諸機能を果し得なくなり、過剩となる。かくて、大量の商品資本はあつても賣れないし、大量の固定資本はあつても再生産が停滯してゐるために使用せられない。そして、信用は收縮され、信用市場は緊張して來る。斯かる時、産業資本家は期限の迫つてゐる支拂を濟ませて再生産を繼續するために汎ゆる策を盡して新なる債權者を求める。そして、銀行信用に對する需要が急増する。その結果、信用の騰貴するのが定石であるが、併し一九三〇年と三一年前半との間には割引率は寧ろ反對に低下して居るのを見る。だが、斯かる信用の低廉化は誰でもが信用を得る事が出来る事を指標するものではない。それを得る事の出来るためには、先づ「大金融力の所有者」でなければならぬ。故に、今や利率は信用の需要供給の事實上の相互關係の指標ではなくなり、一般には金利が安くても借金難である。銀行は、支拂能力の小なる企業には信用授與を停止する。だが、彼等が最も痛切に信用を求めて居るのである。かくて、信

用の拒絶は不可避的に、これらの企業を破滅に導く。企業が將棋倒しに破産する様になると、破産者に信用を授與して居た銀行にも困難が振りかゝる。企業の大規模破産及び預金の大规模引出と云ふ二重の壓迫の下に、銀行も亦續々と破産する。此の銀行破産は信用恐慌を頂點に達せしめ、更に産業の苦況を一層深刻ならしむる。一切のか弱きものは恐慌によつて拂ひ退かれ、結局息をふき返へし得るものは、破産企業を安く手に入れた所の最も生活能力あるもののみである。恐慌は、かくて、不可避的に資本の大集中を伴ふ。

上に述べたるが如く、信用恐慌の波は或る一國の經濟的關係の範圍内にだけ擴がるものではなく、此の信用恐慌の激化は更に舞臺を大にして國際信用關係の上にも荒れ狂ふに至る。戦後、種々の不安は國際資本市場に於ける資本をば長期市場より引出して専ら短期投資を賑かならしむるに至つた。故に、若し國內に大なる信用恐慌の發生せる時には、外國信用特に短期資本が引き揚げられ、資本の輸出が甚しく縮少せられ、世界貨幣（金）の移動が激烈になつて來る。さうなると、國際貸借は本質的な變化を蒙り、金の流出が盛んになる。此の流出は、本位貨をば金の基礎から切斷する事を以つて、即ち金本位の停止を以つて終りを告げる。その結果崩壞の打撃を蒙つた國の外國爲替相場は絶えず動搖にさらされ、爲替の混亂が生ずる。斯様にして、信用恐慌は本位貨恐慌に轉化し、又それに次いで國家財政の危機を惹き起すに至る事もある。

本位貨混亂が始まると、金爲替本位制の下に於いても外國爲替を正貨準備にすることが困難になる。平時に於てさへ外國本位貨への信賴は完全な信賴ではないのであるから、發券銀行はその保有せる外國爲替を多量に投げ出すに至り、自他共に混亂に陥らしめ、こゝに金本位制の新なる停止、本位貨恐慌の一段の展開が誘致せられる事となる。

斯様にして見る時、世界恐慌の發展が必然的な力を以つて此の恐慌の最も顯著な特殊性の一たる本位貨恐慌を招來したのである。これは、世界的現象であり、又國を異にするに従つて種々の期間に亘り、種々の力を以つて不均等な發展を示して居る。斯様に、國際的な信用 \parallel 貨幣的連繫機構の大混亂が附加せられる事によつて、世界恐慌の尖鋭さは最も深刻なる影響を蒙らざるを得なくなつたのである。本位貨恐慌の發展と深化とは、國際貿易の破壊を強めて居る。金本位離脱國は金本位國から輸入する事が益々困難になる。又、爲替相場
の動搖は取引特に豫約取引を困難ならしめる。

扱て、此の本位貨恐慌はインフレーションの最初の徴候である。インフレーションの必然的前提は、金本位制の停止、即ち金兌換銀行券を不換銀行券に變へる事である。金本位制の停止後に、流通しつゝある銀行券及び紙幣の量が流通に必要な貨幣(金)の量を超えるならば、前者の減價が不可避的に起り、金物價と紙幣物價との間に開きが生ずる。此の開きの原因は、商品の側にも紙幣の側にもある。今や、インフレーション政策を促がす傾向が世界各國に漲つて居る。インフレ政策の味方は、インフレ景氣が一般的景氣昂揚を作り出し、商業の復活を喚起するに違ひないとの前提から出發して居る。併し乍ら、インフレーションの結果、労働者及び勤勞者階級及び金利生活者の所得は新たに相對的に減少させられる事となり購買力は新なる減退を來す事となるが故に、生産と消費との間の矛盾は更に激化せられずに居ない。

上に述べた所によつて、現在の世界恐慌全體の動態に就いて個々の部分的恐慌相互間の關聯性が略々明かになつたであらう。それによると、信用恐慌、財政恐慌、本位貨恐慌の領域に於ける一切の恐慌現象の根底には過剰生産恐慌が横はつて居るのであるから、今日の世界經濟恐慌は單なる信用上及び貨幣上の諸方策によつて除

去せられ得ると考へる事は許されない。換言すると、インフレーション即ち銀行券の大増發により銀行が大なる信用を與へる事によつて、若しくは反對にデフレーション即ち金本位制の保持・信用の騰貴と制限とによつて、直ちに世界恐慌から脱却する事が出来るものではないのである。それ故に、Agendaが最重要の問題として居る自由金本位制への國際的復歸と云ふ事について、假令世界會議に於いて何等かの協定をなして各々自國の國民經濟に適應せる平價を採る事が出來て一應何等かの形に於いて此の問題が解決せられ得るにしても、併しそのみを以つて世界の景氣を恢復し得ると考へる事は許されない事である。人々が目して最重要の問題となす所の此の本位制の問題が解決せられても世界の景氣が決定的に回春の方向を辿る譯ではないとするならば、世界的景氣回復を希求する限りに於いては、吾々は此の會議に對して餘り大なる期待をかける事は出來ないであらう。奥深くひそむ病源にふれる事なく、たゞ表面にあらはれて居る外傷にメスを入れるだけで、その病人の健康が恢復され得ると考へるものは聊さか早計のそしりを受けなければならぬであらう。金本位への復歸の問題は、世界的景氣回復にとつては、單にその一條件たるに過ぎない。抑々世界經濟は自由資本主義の產物であつて、安定せる貨幣本位制を基調として、その上に於ける自由貿易・自由なる金の移動等を條件として始めて成立し得るものである。然るに、世界經濟の發展に伴れて關稅戰の激化・戰爭・戰債賠償支拂・及び列強經濟力の不均等なる發展等によつて「金の偏在」が生ずるに及んで、金本位制は停止せられ、その結果外國爲替相場は崩落し、新たに「爲替管理」、「貿易管理」等の制度を生むに至つたのである。これによつて見ても明かなるが如く、金本位の問題は汎ゆる方面にひつかゝりのある大問題である。例へば、自由金本位復活に必須の條件を算えてみても、戰債及び賠償金の徹底的輕減、自由通商の障礙撤廢、國際長期投資の再開及び國際短

期資本の統制と云ふ様な事がある。Agenda (一)の「通貨及び信用政策」を取扱ふ際には、豫め戦債や關稅等の問題が解決せられて在る事を必要とする。所が、Agenda (五)に問題となつて居る關稅低下をはかるためには復安定せる本位制の存在が豫め必要とせられる。それ故に、全問題は凡て同時に相互協同的に歩調を合はせて、各國の國際協調的態度によつて解決せらるゝ事の必要な事を、何人も之を認識せざるを得ないであらう。

四 國民主義と國際主義の矛盾は如何に解決せられるか

今や、世界經濟會議に於いては、國際協調政策による世界的景氣回復策が企てられて居る。從來とても、景氣回復のためには種々なる方策が採られて來た。戰敗國ドイツが一九二五年『産業合理化』なる新スローガンを掲げて立つた時、人々はこれこそは危殆に瀕せる末期の資本主義を若返らせる妙策であるかの如く幻想したが、しかし此の合理化運動の各國に於ける發展は、失業者と滯貨とを増大するのみで一向景氣は良くならなかつた。合理化運動の進展に伴れて私的獨占到對する不信認が擡頭して來て、技術的合理化は良いがそれを私的に獨占するのは良くないから國家的な公的統制によつて新局面を打開しなければならぬ、と云ふ者が勢力を得て來た。「産業合理化」は主として個々の企業經營上の問題であるが、今日ではそれが齎らした諸欠陥・世界恐慌・及び戰爭の危機が相合して個別的企業ではなく一國民經濟又は進んで一經濟ブロックの合理化、即ちその中に含まれて居る全經濟組織の統制を問題とせざるを得ない様な情勢に立ち到つたのである。かくの如くにして、「産業合理化」ではなく「産業統制」が新しいスローガンとなつた。そして、各國は、斯くする事によつて、今度こそは、經濟恐慌から脱却し得るであらうと考へた。各國は各々經濟的國民主義の立場に立つて、一

方對内關係に於いては國家的統制の見地から重要産業の大合同を行ふと共に、他方對外關係に於いては封鎖的侵略主義を採り外國からは買はずに外國へは賣らうとする様に轉向した。人々は、時に之を「ブロック經濟」又は「ファッシズム經濟」とも呼ぶ。

併し乍ら、斯くの如き政策を以つてしても、世界恐慌の暴風を制御する事が出来ないばかりでなく益々それが荒れ狂ふに至り、各國はその一般性・深刻性・及び繼續性に於いて歴史上曾つて經驗した事のない程悲惨な世界經濟恐慌の渦中に身を奔弄され、自國の力だけでは如何ともなし得なくなつたのを知つて、茲に國際的に同類相集つて何とか之を打開する方法を講じようと云ふので、世界經濟會議が開かれる事となり、世人も亦之に大なる關心を持つ様になつて來たのである。即ち、從來各國が銘々勝手に行つて來た種々の不況打開策が悉く所期の効果を示してくれなかつたので、こゝに「産業合理化」及び「産業統制」と云ふ二段の方策から「世界經濟會議」へと三段の轉化を行つて、深刻なる世界經濟恐慌から脱却せんと企てたのである。第一段と第二段の方策の間には私的公的の差こそあれ俱に一國民經濟（又はブロック）の政策であつたのであるが、今問題として居る第三段の世界經濟會議は國內的政策に見切をつけ國際的に景氣打開策を講ぜんとするものである。これは、國際協調政策によつて世界的恐慌から脱却せんとする資本主義經濟の最後の切札である。此の會議は果して如何なる靈藥を授けて呉れるであらうか。

前にも一寸述べた様に、世界經濟會議の議題にあらはれてゐる問題は、相互に密接なる關聯を有するが故に協同的解決が必要であるのみならず、又世界の二三の國のみではなく汎ゆる國が協力協調して之が解決に努めなければならぬのである。若しも各國が擧つて已を空しうして協議し世界經濟的相互依存關係の圓滑なる發

展をはかり得るならば、此の會議から曙光の現はれるのを期待する事も出来るであらう。

何人もひとしく今や經濟生活の國際化・恐慌の世界性を認め、且つ國際協調の必要を強調する。だが、目前に見る世界經濟の現勢は、之とは逆に、餘りにも露骨に經濟的國民主義を固守して居る。軍縮會議が嚴かに行はれてゐる際に、日支紛争は仲々終結せず、日米、獨佛、英ソの關係は各々緊張して居る。ローザンヌ會議の終るや否や、その會議に於て世界恐慌克服のための世界經濟會議の開催を要請せるにも拘らず、イギリスがオッタワ會議に臨んで凡そ此の目的とは縁遠い様な事柄を議決した。Agenda は、國際協調を唱えるにも拘らず、諸國には關稅引上、輸入割當制度、爲替管理に關する法律命令の公布を見、果して各國に國際協調の熱意あるや否やを疑はしむるものがある。フランスは、本年二月三小國同盟（チエッコスロバキア、ルーマニア、ユーゴスラヴィア）の結成に成功した。此の同盟はフランスの金融的支持を受けて居て、謂はゞフランスを中心とするブロックの中に包含せられたのである。斯様にして、世界經濟に於ける『ブロック經濟』化の傾向は益々伸張せられんとしつゝあるのを見る。此處に、明らかに、國際主義と國民主義との矛盾があらはれて居る。これが根本的な悩みである。現在の如く各國民經濟の國際的相互依存關係が緊密になつて居る秋には一國の孤立的・封鎖的經濟政策は假令一時的には自國の經濟的危機を打開するに役立つにしても、それは結局世界恐慌を益々悪化せしむることによつて其の本來の目的に反する結果を招かざるを得ない。已れに出づるものは已れに歸る。此の意味に於いて、國際主義と國民主義との矛盾が、その解決を俟つて居る。これが、現下の世界の最も根本的な悩みである。

例へば、通商自由の回復を例にとつてみる。高き關稅障壁その他の過度なる貿易障礙が國際分業の利益を失

はしめ、世界恐慌をして一層深刻ならしむる一因となつて居る事は、疑のない所である。一九三〇年及び三一年前半頃までは關稅引上が國民主義的貿易政策の主たる手段であつたが、一九三一年後半以後に於いては關稅政策よりも寧ろヨリ一層封鎖的保護主義の色彩の濃厚なる貿易抑制政策即ち輸入禁止・輸入制限・輸入割當制度・輸入許可制度・輸入國家管理等が適用せられる様に變化して來た。而して、又、一九三一年の金融恐慌以後は、金本位離脱それ自體がまた輸入抑制輸出促進の効果を發揮したと共に、その後には於ける各國の關稅政策並びにそれ以外の貿易抑制政策を一層刺戟する動因となつたので、その結果爲替管理の制度が資本逃避と爲替崩落とを防止し輸入を抑制する目的を以つて續々として諸國に採用せられるに至つた。現在の如き發展せる世界經濟に於いては、一國が貿易制限政策や信用收縮政策によつて封鎖的な國民經濟政策を強行する事は、必然的に他の諸々の國をして報復的に同様の手段に訴えさせる結果を招く。各國の封鎖的な貿易政策は相互に刺戟となつて國際關稅戰を激化せしめ、自由貿易の傳統を誇つて居た彼のイギリスさへも保護貿易主義に改宗するに至つた程である。その必然的結果として、各國相互の貿易が減退した。Agenda に述べられて居る所によると、一九三二年第三四半期に於ける世界貿易の總額は一九二九年同期の約三分の一に過ぎなかつた。而して、その數量は約二五%低落して記録上最大の低落を示して居る。そこで、世界經濟會議は國際貿易にヨリ大なる自由を與へる様にと協議するのである。輸入制限のための汎ゆる直接的方策——輸入禁止・輸入割當・輸入許可等を出來るだけ除去し、關稅休戰又は引下げをなし以つて通商の自由を確立する事が望ましいと云ふ事は、各國共に原則として、之を認容する所である。併し乍ら、各國が目下世界恐慌の眞只中に在つて財政の赤字に惱み關稅收入を財源の一とたのむ折柄、又經濟的國民主義が旺盛を極めブロック形成が激化する傾向のある秋

に方つて、世界經濟の力強い傾向として自由貿易から國際關稅戰へと不可避的に發展して來た此の儼然たる事實をば、世界經濟會議が果して良く解決し得るか否かは大なる疑問である。

戰後、強烈なる國民主義的傾向と相並んで國際協調主義に基く運動が漸次現はれ、國際聯盟等が主となつてそれを行つて來たが、經濟政策の方面に於いて此の傾向の先驅をなしたものは一九二七年五月のジュネーヴの國際經濟會議である。此の會議の目的は、世界經濟の進歩に對する諸障壁について輿論を喚起し、それが輕減撤廢の原則及び方法に就いて國際的協定を得んとするにあつた。その到達せる決議の要旨は、各國の貿易は關稅障壁によつて妨げられてゐるが、經濟情勢の重要な改良は貿易を一層進捗する事によつて得られるものであるから、關稅引上げを止めてその反對の方向に進まなければならぬと云ふ點にあつた。そして、それがために具體的な三つの方法（單獨引下・双方向的通商條約による引下・多角的協定による引下）迄も提案せられたが、その何れもが効果を現はすには至らなかつた。此の決議を實行に移す試企として、一九二七年十月及び十一月ジュネーヴの國際會議で輸出入禁止及び制限の撤廢に關する國際條約の締結をみたが、約三十ヶ國の調印中無條件に批准したのは僅か七ヶ國にすぎず、その實施上にも種々の困難が横つてゐる。又、一九三〇年二月十七日から五週間の日數を費してジュネーヴに於いて所謂『關稅休戰會議』Tariff Truce Conference が開催せられ、三十ヶ國の参加を見たが、その成績は豫期に反したものとなつてしまつた。即ち、始めは少くとも數年間は關稅引上を行はないと云ふ集合的條約を締結する豫定であつたのに、僅かに一ヶ年間たゞ双方向的關稅協定の存する諸國に於いて夫々關稅改正を行はないと云ふ協定が成立したに過ぎず、眞の意味の關稅休戰は拋棄せられて了つたのである。併し乍ら、此の會議に於いて「諸國民間の經濟的平和を鞏固にするために、ヨリ密接なる協

同、生産及び貿易の方面に於ける改善、市場の擴大を期し、且つ歐洲諸國の市場相互間並びにその海外市場との關係を一層進捗する」と云ふ將來の協定のプログラムが起草されて、國際聯盟の注意が世界全體から歐羅巴へと向けられブリアン氏の理想たる『ヨーロッパ合衆國』の實現に貢献せんとした事は注目すべき事である。世界貿易の状態を見ると、次第に海外市場を喪失しつつある西歐工業國は東歐農業國に市場を開拓すべきであり、それがためには相互に通商の障礙を撤廢して歐羅巴全體として農業國と工業國との均衡を保たなければならぬ。特に、最近著しく大なる力を有するに至つたアメリカ經濟ブロックに對抗するがためには、歐羅巴經濟ブロックを作らなければならなくなつたのである。斯かる意味に於いて、關稅休戰會議が歐羅巴のみの會議の如くになつてしまつたのである。

斯様にして、關稅休戰會議の不成績が明かになつてからは、全面的な國際協調の代りに寧ろ一部分的な若干の國にだけに限定せられた貿易政策上の協調が採られる様になつて來て、國際協調の變態的形態たるブロック經濟形成へと方向を轉換して來た事は注視すべき現象である。斯かる傾向をとつた事に就いては、尙ほ、戰爭の危機の迫りつゝある時勢に於いては、外國の食糧及び原料の厄介にならぬ様にして置かんとする政治的考量も亦與つて力あるものと云ふ可く、國際的經濟關係も亦政治的關聯を無視して考察する事を許さないのである。従つて、今次の世界經濟會議に於いて列國が振ふ政治的な力が最も重大なる問題となる事は必定である。所で、世界經濟會議の議題を構成して居る關稅その他の問題については、その豫備會商に於いて各々特殊事情を有する各國が個別的に取決めを行ひ、それをロンドンに於ける世界經濟會議が公に協定する事になり、結局前車の轍をふむものではなからうか。即ち、さきの關稅休戰會議に於けるが如くブロック經濟形成の方向に副

ふて各國別の關稅協定が出来るのではなからうか。かくの如くにして、自國と利害關係を同じくする二、三の外國との經濟的聯繫關係がそこに結成される事となる。従つて、近き將來に於いて存續すべき經濟的國際關係は、合目的な計劃構成即ブロック經濟の樹立であつて、決して自由通商の國際經濟關係ではなくなるであらう。近き將來の國際的關係に於いて考へられるものは、自由貿易主義と最惠制度とはなくして、關稅同盟・通商條約・輸入割當制度・貿易管理等でなければならぬ。扱て、今次の豫備會商に於いては、勿論各國間の勢力關係が大なる作用を發揮し、協定をば強國に有利に導いて行くであらう。戰債問題解決の鍵をにぎつて居るアメリカ合衆國の如きは汎ゆる問題の商議に於いて有利なる立場に在るものと云ふべきであらう。さうすると、各國によつて多大の期待をかけられて居る此の世界經濟會議もつまる所は強國のため・しかも其の強大なるブロック形成のための一手段と化するの外はなくなるであらう。若しもさうであるとすれば、國際主義の運動は敗北を喫し、世界經濟は依然としてブロック經濟強化のための國民主義的運動の中に自らの歩みを見出すこととなるであらう。そして、列國間の、又はブロック間の鬭争は益々その勢ひを増し、弱國は強大なる國の支配の下に立たざるを得なくなるのは必然である。かゝる時、假令他國の景氣を犠牲として一國のみの景氣を克服し一時的には或る程度の効果が得られるにしても、しかしかゝる利己的な排他的な國民主義的經濟政策は最も犠牲多き恐慌緩和策と云はざるを得ない。ブロック間の鬭争は益々激しくなり、世界の經濟界は混亂に混亂を重ね、斯くては世界全般の景氣回復などと云ふ事は夢想だにする事が出来なくなるであらう。

斯様に批判して來ると、此の『世界通貨及び經濟會議』も結局は往年のジュネーヴ軍縮會議の運命の如きものに歸するのではあるまいか。

(一九三三・五・十)